

情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	小学校 3年生
領域	学級活動（気持ちのキャッチボール・学級の諸問題）
指導項目	発信する情報や情報社会での行動に責任をもつ 相手への影響を考えて行動する

情報モラル指導モデルカリキュラム http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html			
指導分野	情報社会の倫理		
コード	a 2-1	指導事項	発信する情報や情報社会での行動に責任をもつ 相手への影響を考えて行動する

授業前の児童の状況	<p>小学校3年生になると、周りの仲間のよさや問題点などを捉えたり、自分なりの意見・考えをもったりするようになる。しかし、自分に対しては見方が甘く、自分がどうあるべきかよりも感情を優先させることが多い。また、攻撃的な言葉を相手にぶつける児童もいる。</p> <p>インターネットでの架空のやりとりを基に、事前アンケートを実施したところ、刺激的・攻撃的な言葉への関心が高かったり影響を受けたりする児童が多いことが分かった。</p> <p>マナーについては、肯定的に受け止めようと考えている児童は多いものの、「気持ちがいいから守る」というように浅い考えの児童や、「みんなのために守る」と漠然と捉えている児童がいる。この時期の児童は、遊びや生活を通してマナーなどの社会性を身に付けていく段階にある。</p> <p>インターネットのような相手の顔が見えない状況では、自分の感じたことを感情のままに表現したり、刺激的・攻撃的な言葉で表現したりする傾向がより強くなる。インターネットの世界と密接に結びつく前の今こそ、情報を発信する際の責任について考えさせることが大切だと考える。</p>
期待される児童の変容 (ねらい)	<p>児童に「仲間の悪口をよく言う人と、あなたは友達になりたいか？」と尋ねると、ほぼ「いいえ」という答えが返ってくる。「自分がどんな人であれば、相手は友達になりたいと思ってくれるだろう」と、客観的に自分を見つめさせることにより、現在の自分の言動を振り返らせることにつながる。また、目指す自分の姿を強く意識させることで、自分の言動をコントロールできる児童に育てていきたい。こうした日頃の指導を通して、情報社会でのモラル意識の高揚につなげたい。</p>
児童生徒の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<p>インターネットのような相手の顔が見えない状況では、人の悪口などはよりエスカレートした内容になることが多いが、児童の多くは、インターネット上での悪質な誹謗中傷に対しては、「ひどい」「してはいけない」と感じるができることと予想される。</p> <p>こうしたインターネットでの問題を考えさせた後に、学校生活における悪口などの問題と比較・検証させることにより、児童に日常生活での言葉やマナーについての問題意識を強くもたせることができると考える。</p>

<p>利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等</p>	<ul style="list-style-type: none">・情報モラル教育支援ソフト 「事例で学ぶNetモラル」 (市販) B-02 「掲示板を使うときに気をつけること」 玉川大学 教授 堀田龍也 企画・監修・文部科学省「ちょっと待って!ケータイ&スマホ」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/1225103.htm (平成24年度) P1内にあるマンガのみ使用
---	---

<事後アンケート 質問>

次の質問に答えましょう。あなたが一番正しいと思うものに○をつけてください。

- 1 学習で、けいじ板をつかうことになった時、あなたは、どのような気持ちになりますか？
 - ア いろいろな学校で、調べたことがわかるので、楽しみだ。
 - イ イタズラ書きなどをしてわからないだろうから、いろんなことを書いてみたい。
 - ウ じゆうに何でも書きこみができるので、おもしろいことをたくさん書いてみたい。
 - エ 多くの人が書きこみをするので、ていねいなことばをつかおうと思う。
 - オ インターネットは、きけんだと聞いているので、あまりつかいたくない。
- 2 けいじ板に、まちがいが書きこまれているのを見つけたとき、あなたはどのようにしますか？
 - ア 友だちに言う。
 - イ 自分とかんけいがないので、ほうっておく。
 - ウ まちがったことを書いているので、きついことばでちゅういする。
 - エ 先生に言う。
 - オ へんじを書くところに、「まちがっているよ」と書く。
- 3 同じクラスの人が、へんな書きこみをしたのを見つけた時、あなたはどのようにしますか？
 - ア けいじ板に書きこんでちゅういをする。
 - イ 書いている本人に、きついことばでちゅういする。
 - ウ 自分とかんけいがないので、ほうっておく。
 - エ 友だちに言う。
 - オ 先生に言う。
- 4 けいじ板に書きこむ時は、どのようなことばづかいをしたほうがよいと思いますか？
 - ア 自分のちしきをしってもらうために、あいてが知らないことばをつかう。
 - イ 友だちと話しているようなことばを使う。
 - ウ わかりやすいことばを使う。
 - エ 自分のしらべたことや、考えが、正しくつたわることばをつかう。
 - オ あいての人が読んだ時に、イヤな気持ちにならないことばをつかう。
- 5 自分の書きこみにたいして、ほかの人から、イヤなへんじがあった時、あなたはどのようにしますか？
 - ア へんじを書くところに「イヤなこと書かないで」と書く。
 - イ 先生に言う。
 - ウ ほうっておく。
 - エ イヤなことを書いているので、きついことばでちゅういする。
 - オ 友だちに言う。

6 あなたは、さいきん、クラスのなかまのことばについて、どう感じていますか。

ア ていねいなことばがふえている。

イ ていねいなことばが少しふえている。

ウ 前からていねいなことばをみんながつかっているので、あまりかわらない。

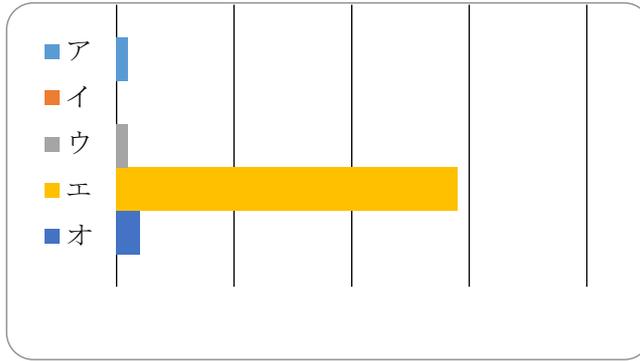
エ 前からていねいなことばをみんながつかっていないので、あまりかわらない。

オ ていねいなことばがへった。

7 あなたは、これから、どんな言葉をつかうことを心がけようと考えていますか。（自由記述）

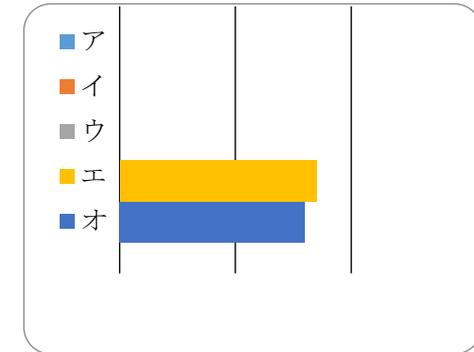
<事後アンケート 集計結果>

1
 ア 1
 イ 0
 ウ 1
 エ 29
 オ 2
 合計 33



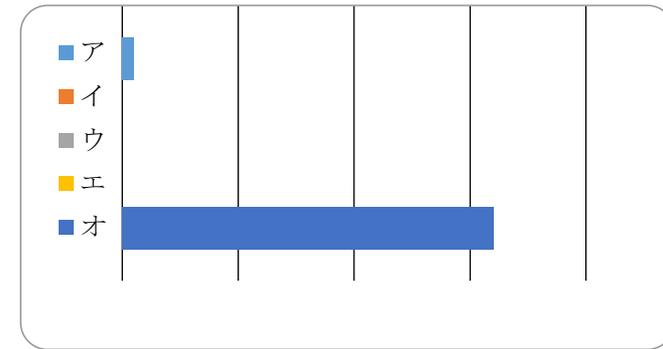
「掲示板は多くの人
 が見ているので、丁
 寧な言葉を使う」と
 という意識が高まった
 と言える。

2
 ア 0
 イ 0
 ウ 0
 エ 17
 オ 16
 合計 33



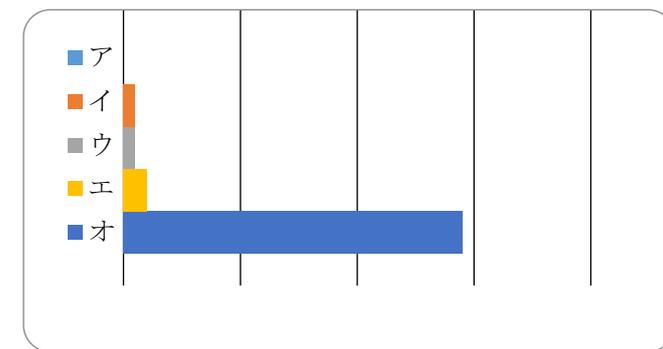
児童にとって「間違っているよ」
 は、親切な言葉の一つと考える。
 全員が正しい判断をしたと考えて
 いる。

3
 ア 1
 イ 0
 ウ 0
 エ 0
 オ 32
 合計 33



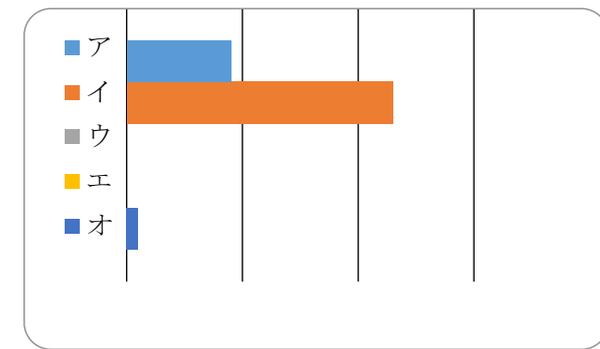
ほぼ全員が正しい判
 断をすることができ
 た。

4
 ア 0
 イ 1
 ウ 1
 エ 2
 オ 29
 合計 33

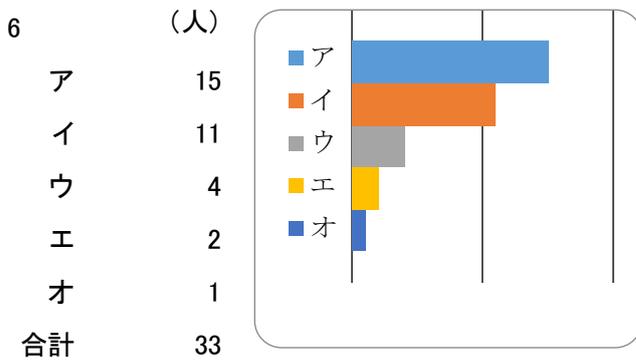


分かりやすい言葉や
 正しく伝わる言葉が
 少ないことも、授業
 の影響と考える。総
 合的に考え、判断す
 ることも大切なこと
 と考える。

5
 ア 9
 イ 23
 ウ 0
 エ 0
 オ 1
 合計 33



「きつい言葉で注意す
 る」「放っておく」を選
 んだ児童が一人もいな
 かった。ほぼ全員が正しい
 判断をすることができ
 た。



7 回答例

ありがとう, ファイト, がんばれ, ごめんなさい, だいじょうぶ?, 「です」「ます」, すごい, どうしたの?, やったね, おはよう, ていねいな言葉, やさしい言葉, しっかりした言葉 など

授業後の児童の感想 (33 人)

○自分の言動について

- ・優しい言葉を心がける。
- ・ひどい言葉や人が傷つく言葉は言わなくて、とても優しい人になる。
- ・悪口や人の嫌がることをしない。
- ・言葉に気をつける。
- ・いい言葉をよくつかう。
- ・相手が嫌だと思わないようにする。
- ・悪口ではなく、優しい言葉にする。
- ・人の傷つく言葉は言わない。
- ・面白半分で言葉にしない。
- ・人の悲しむことを言わないで、(失敗しても) 笑わないようにする。
- ・相手にやられても、仕返しをしない。

○インターネットの掲示板への書きこみについて

- ・意味のない言葉は書かない。丁寧な言葉で読む人の立場になって考える。
- ・ネットに悪口や人の嫌がることを書かない。
- ・ネットでいじめはしない。
- ・人のことを考えて書く。
- ・インターネットだから、顔が見えないからって、ひどい言葉は使わない。
- ・人の気持ちを考えて、悪口を書かないようにする。
- ・人の写真や絵を勝手に使わない。
- ・悪い言葉を書いたり、写真を勝手に撮ったりしない。
- ・悪口を書いたり、ひどい言葉を使ったりしない。
- ・インターネットで、優しい言葉をつかう。
- ・自分が書いたことを見直す。
- ・書いた言葉を見直して、相手の気持ちを考える。
- ・分かっているのに、変なことをやると、いつか自分に返ってくる。
- ・意味のない言葉は使ってはいけない。やってはいけないことを書いた人は、人の気持ちを考える(とよい)。

評価 (指導者による授業への評価)

児童について	<p>児童の 興味・関心の度合い</p> <p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に対しての不快な言動を経験したり，気にしたりしたことのある児童も多く，問題意識が高く，共感的に資料を扱うことができた。
	<p>児童の理解度</p> <p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学年向きの動画は，児童にとって分かりやすい内容であった。授業後の声かけや指導に対して，素直に応じる場面が増えたことから，児童の理解度の高さを感じた。
	<p>児童の 変容の度合い</p> <p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の初めは，刺激的な言葉やひどい言葉に対して笑う児童が多かった。授業が進むにつれて笑いがなくなり，真剣に取り組む変容がみられた。授業後の児童の様子からも，問題となる言動は見られるものの，すぐに反省できるようになってきた。継続的に指導をすることで，より効果が高まると考える。
授業について	<p>事前準備の難易度</p> <p>1. 難 2 3 4. 易</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の指導案や教材など，そのほとんどが「Netモラル」のセット内にあるので，準備は容易であった。また，「Netモラル」にない教材も，目的に合わせて作成した。その際に，中学年向けの資料が少なく，資料選びに苦労した。
	<p>指導者にとっての 授業展開の難易度</p> <p>1. 難 2 3 4. 易</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 発問に対して，児童の反応がよかった。児童にとって考えやすい教材である。授業のポイントが，日頃の生活での実践であるため，その手だてをどうするのが悩みどころであった。
	<p>授業の「ねらい」の 達成度</p> <p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめで，児童に感想等を書かせた。掲示板への書き込みについての内容が多かった。児童の様子や発表の内容，ワークシートなどから，授業のねらいに迫ることができたと感じたが，「情報モラル」と「日頃の生活場面でのモラル」の両方を押さえることにやや難しさを感じた。
	<p>指導方法の 効果の度合い</p> <p>1. 低 2 3 4. 高</p> <p>┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐</p> <p>理由・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の言動を見つめる機会になったと考えている。事後アンケートからも効果があったと考えている。継続的指導が大切であり，計画的に指導をすることで効果が高まると考える。

<実践の感想及び反省点等>

・「スマホ」や「ケータイ」を使ったことのある児童がほぼ全員であった。掲示板を利用した児童は少なかったものの、小学校からの情報モラル指導の必要性を肌で感じる事ができた。事前アンケートで、個人情報漏洩に対する意識が高いことが分かり、日頃の家庭や学校での指導が生かされていると感じた。しかし、児童の情報モラルに対する知識はまだ少なく、携帯電話やスマートフォン使用による危険度が増しているように感じた。

・授業では、「インターネットの世界」のよくない事例に対し、絶対にしてはいけないことだと共感的に扱うことができた。それを踏まえて、自分たちの言動を見つめさせることで、児童個々の「モラル」を高められたと感じている。自分を守るための「情報モラル」だけではなく、加害者にもならないようにする指導になったのではないかと考えている。授業の最後に、よい言葉を考えさせて授業を終えた。目指すべき自分を考え、見つけ、実践する経験を重ねていくことは、一生継続してほしい。それに少し近づけた授業になったと思う。ただ、インターネットの世界の事例の印象が強く、なかなか自分のこととして目を向けられない児童もいたと感じた。

・情報機器利用の低年齢化が進む中、小学校中学年向けの資料をなかなか見つけることができなかった。情報モラル教育を支える資料の充実の必要性を感じた。

・情報モラルの授業実践を研究授業として位置付け、本校職員に公開した。情報モラル指導の必要性が高まる中、学年の実態に応じながら継続的に情報モラルの授業実践をしていけるよう、学校全体としての取組を計画していく必要がある。

<p>展開 2</p>	<p>5 分</p>	<p>9 スライドやグラフを見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示板の例をもとに、場合によっては、重大な事件につながる可能性があることを確認する。 ・ グラフから、ネットいじめが年々増えていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活との共通点をつかませる。被害者にも加害者にもなりえることを確かめる。 ・ ネットいじめの認知件数が、年々増えていることを伝える。
<p>まとめ</p>	<p>10 分</p>	<p>10 自分の使う言葉について、気を付けることをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日頃から、悪口や相手の人が傷つく言葉を使わない。</div></p> <p>11 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活とインターネットの世界との共通点を確認しながら発表させる。 ・ 礼儀正しい言葉・気持ちのよい言葉を使って、安心して生活できる学級・学校にしていこうと働きかける。